

伝える！ 国連の仕事

地球への思い #に乗せ行動につなげよう

1
家庭で節電する

2
徒歩や自転車で移動する。
または公共交通機関を利用する

3
野菜をもっと多く食べる

4
長距離の移動手段を考える

5
廃棄食品を減らす

6
リデュース、リユース、
リペア、リサイクル

7
家庭のエネルギー源を替える

8
電気自動車に乗り替える

9
環境に配慮した製品を選ぶ

10
声を上げる

いくつやってる？
気候危機を解決するための
10の行動。

いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。 **1.5℃の約束**

個人で取り組める気候変動問題への対策をまとめた図。「#何もしないともっと暑くなる」のキャンペーンで紹介されています

国連広報センター提供

地球の温暖化をはじめとした気候変動の問題は、世界の人々と動植物の命や暮らしにかかわる大きなテーマです。国際連合(国連)では気候変動を食い止めるための働きかけを行っています。国連の動きを伝える国連広報センターも「#何もしないともっと暑くなる」と題した運動を開始。センターの所長、根本かおるさんがねらいや取り組みを紹介します。



暑さで亡くなる人、世界で年間50万人とも
9月に入っても暑さを感じる日が続いています。ただ、暑さに見舞われているのは日本にかぎったことではありません。
「地球はいつまで暑くなり、あらゆる場所が危険になっ

#何もしないと もっと暑くなる

気温の上昇や異常気象をまねく気候変動の問題を防ぐため、国連広報センターが中心となり、メディアなどと共同で人々に行動を呼びかけるSNS上のキャンペーンです。温室効果ガスを減らすために役立つ国連の「個人でできる10の行動」も紹介しています。
18世紀に始まった産業革命前とくらべ、気温上昇を1.5度におさえる「1.5℃の約束」という運動の一環でもあり、朝日学生新聞社も参加しています。



世界で危険な暑さが続いていることを受け、記者会見する国連のグテーレス事務総長＝7月25日、米ニューヨークの国連本部

朝日新聞社

個人でも取り組めることはたくさんある

「世界は気温上昇の課題に立ち向かわなければならぬ」……
こう語るのは、国連のトップ、アントニオ・グテーレス事務総長です。
「世界は気温上昇の課題に立ち向かわなければならぬ」……
こう語るのは、国連のトップ、アントニオ・グテーレス事務総長です。

今からでもできることは多くある。そのことに気づいてもらいたい。わたしたちが始めたのが「#何もしないともっと暑くなる」と題したキャンペーンです。国連が人々に伝えたいメッセージを効果的に伝えるようにかたちにするのは、国連広報センターの最も重要な仕事のひとつです。外部の専門家などの力を借り、多くの人に関心をもってもらえるイラストやキャッチコピーを何度も話し合いつくりあげていきました。もちろん、国連本部にも計画を報告したり、相談したりしながら進めました。
そして8月1日、キャンペーンはスタートを迎えました。SNS上で、温室効果ガスの削減に向けて国連が提唱する「個人でできる10の行動」を紹介するイラストやメッセージに、「#何もしないともっと暑くなる」を添えて投稿。賛同するテレビ局などのメディアにも、同様の投稿が行ってもらいました。



根本かおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などをを経て、1996年から2011年まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で勤務。国連世界食糧計画（WFP）広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。

(掲載：朝日小学生新聞 2024年9月8日掲載)